
HUNT CODE:REBELLION

G r i v e

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

HUNT CODE..REBELLION

【Nコード】

N6504B

【作者名】

Grive

【あらすじ】

新種のウイルスによる災害アメリカブレイクにより体を炎や水に変化させることができるミュータントとなったトムがA・H・Gという反裏政府組織に入り、様々なアクションとともに真実を探る！

N o . 1 R E B E L L I O N : : T O M (前書き)

初心者で劣らないところもありますが、よろしくです。HUNTは本編4つ(CODE・REBELLION、CODE・Virus、CODE・Killer、CODE・The GOLD)からなります、その中でもメインのトム・リベイスの話です。読んで貰えれば嬉しい限りです。

No. 1 REBELLION::TOM

2090年以降

アメリカ政府はただの役人達によって成り立つものでは無くなって
いた。

裏の人間、マフィア、ミュータント、とにかくたちの悪い奴らが裏
で政府を操り、一般人を使い自分達に利益が行くようにしていた。

人々は彼等を裏政府と呼ぶ。

2100年1月23日

裏政府に対抗すべくA・H・Gというミュータント組織が結成され
た。

人間を越えた存在のミュータントは裏政府を倒すべく立ち上がった
のだ。

2102年1月1日

のちにアメリカブレイクアウトと呼ばれる新種のウイルスによるアメリカ半壊の大自然災害が起きる。
後に裏政府によるものと判明。

2102年1月28日

アメリカブレイクアウト被害者の中で有一生き残ったとされるトム・リベイスがA・H・Gに入った。

2102年1月30日

A・H・G本部（所在地不明）

「お前が新しく入ったっていうトムだな？俺はサムっていうんだ、よろしくな」

「よろしく」

トムはサムな方に振り返り返事をした。

「トム、A・H・Gの目的は知ってりよな。」

「ああ」

「あ、ならHUNT PROってしってるか？」

「いや、知らない」

「だろ、ちょうどお前がA・H・Gに入って来た日に結成された特殊部隊だ、詳しいことはTOPのGOLDぐらいしか知らないらしいがな」

「ふーん、一度見てみたいな。ああと質問いいか？サム。」

「ああ、なんだ？」

「幹部構成はどうなってる？」

「幹部はスパイリアー・サムシズ、グレイブ・マルコニー、サンソット・S・コイルの三人からなる。」

「あって挨拶してきたいんだが、どこにいる？」

「ああ今日はスパイリアーはいないぜ、HUNT PROと一緒に任務だとき」

「任務？初耳だな・・・HUNT PROよっぽどすごいんだな」

「まあトムお前も頑張れよ。」

サムはそういうとその場をはなれた。

2102年2月4日

HUNT PRO、スパイリアーが任務から帰還、同時に全世界でアメリカ政府の大統領、副大統領以外が殺害されるという事件が話題になった。

N o. 1 REBELLION::TOM (後書き)

初投稿作となりました、これからHUNTシリーズを書きながら腕を上げていきたいと思っています。

No. 2 Killer

2102年2月4日

A・H・G本部連絡用通路2F

「これも裏政府によるものなのかな？」

トムは歩きながらサムに尋ねた。

「さあな、でも裏政府によるものだろうな、他の奴らには理由が見当たらない。」

「今更だが裏政府の目的って何なんだ？」

「これは推測だが、アメリカ自体を乗っ取って戦争等で一般人、軍隊を動かして利益でも上げたいんじゃないか？」

「へえー」「聞いてきたわりには興味なさそうだな。まあ一般人にとって悪い方向に向かっているのは間違いないだろう、俺達の仕事は裏政府を滅ぼしてアメリカを通常の国家にするだけさ。」

「その仕事実現させなきゃな」

「ああ」

トムとサムはそう話し合い連絡用通路を渡った。

2102年7月7日

某所（室内）

「いるんだろ、でてこいよ」

一人の男が言う。

「ばれていたか」

物陰から一人の男がでてきた。

「HUNT PROのレッドリィ・アウトラウか、目的は？」

「お前は知ってはならないことを知った。機密事項の漏洩は避けなければならない。」

「だから？」

男は少し笑いながら聞いた。

「人の口約束なんて信用できない、だから始末する。」

「幹部の俺に勝てると思うのか？」

男はレッドリィを軽く睨んだ。

だが、レッドリィは動じず答える。

「お前の知った情報などほんの一部だ、我々HUNT PROの秘密を知らない。」

「例えば？」

「教えると思ったか？だが今日は特別だ、お前を殺人ではなく事故死にみせなければならぬ。後始末の時間も必要ということだ、だから始末は急がないとな。」

「できるかな？」

「ブライブ！」

レッドリイがそう叫ぶと何処からか水が大量に降って来て床に水溜まりができた。

「この水溜まりがHUNT PROのブレイブ・センスか？笑わせるな」

「お前はまだ知らない」

レッドリイがそーいーい終わると、水溜まりが形を変えながら男に近

づき、男の服に染み込んだ。

「これが技か？風邪でもひかせるきか？」

男は半笑いで答えた。

「HUNT PROは三人だ」

レッドリイがそう言うのと男に三度程雷が落ちた。

「任務完了だ、ブレイブ、キラリア、GOLD様に報告に行くぞ」

レッドリイが合図すると二人の人間が現れ、

消し炭となった男を後にした。

No. 3 Find secret

2102年7月10日

A・H・G本部

ピンポンパンポン

放送前のチャイムになり、GOLDの声が聞こえてきた。

「諸君、残念な話がある、聞いてくれ。3日程前に幹部のサンソットが何者かによって殺害された、真相はHUNT PROに探らせる。それより、幹部候補から幹部を決めたいと思う、至急HUNT PRO、幹部は集まってくれ。以上。」

ピンポンパンポン

最初のチャイムとはやや違う音の放送の終わりを告げるチャイムになった。

しばらくして……

同日

A・H・G本部・休憩室

「トム君。」

GOLDが休憩室のベンチに腰をかけていたトムに声をかけた。

「何ですか？」

トムはGOLDに顔を向ける。

「君に幹部になってもらう、君用の幹部室まで案内する、着いて来い。」

「え？はい。」

トムは少し戸惑いながら返事をし、ベンチから腰をあげた。

同日

A・H・G本部・第三幹部室

「ここが今日から君の部屋だ。」

GOLDは言った。

「わかりました。一つ質問があります、聞いても？」
トムは。

「いいぞ。言ってみろ。」

「なぜ私が幹部に？」

「選ばれたからだ、会議の結果。それだけだ、君の活躍に期待しているぞ。」

そう言うとGOLDは部屋を出た。

「ふう」

トムはため息を付くと、大きい机とセットで置いてある椅子に腰をかけ、周りを見回した。

周りには窓は無く、コンクリートに塗装等を施し木に似せた壁が四角い部屋を作っている。

「俺の部屋ね。」

トムはそう言うと、目の前の机の左下にある引き出しの1番上を開けた。

中には何もない。

「何もないのか？」

トムはその引き出しの中に手を入れ探ってみた。するとトムの手に何かがあたった。

「ボタンか？」

トムは顔を部屋の扉に向け誰も来ないことを確認し、ボタンを押した。

すると天井から一枚の紙きれがひらりと落ちてきた。

「なんだ？」

トムは床に落ちた紙を広い、見てみた。

「手紙か？」

トムは小さな声で呟くように読み上げた。

「誰かがこの手紙を呼んでくれるのを待っていた。俺がその時生きているかは知らないし、わからない。だが俺は重要な情報を掴んだ。この手紙を見たならA・H・G壊滅をはかってほしい。GOLDが全ての元凶だったんだ、アメリカブレイクアウトもGOLDとSILVERと呼ばれる奴の計画だったんだ。そしてまた何かを起こそうとしているらしい。信じて貰えないと思う。その時のために証拠を残した。この手紙を手に入れたように、ボタンを押せ、1番下の引き出しの奥にある。」

トムは黙って1番下の引き出しに手を入れた。

「……………!」

ボタンと思われるものがトムの手に当たった。

トムは息を飲みボタンを押した。

するとまた天井から何かが落ちてきた。

こんどは紙ではないなにか黒い塊だった。

「ボイスレコーダーか。」

トムは迷わず再生スイッチを押した。

ザーツ、ザー……………

雑音だけが流れる。

「偽物かとんだイタズラだな。」

トムがそう言って消そうとしたとき、ボイスレコーダーから話し声が聞こえた。

ザーーッ

GOLDアメリカブレイクアウトは成功…し…が、まだ…わってないのはわか…てるよな？

…あ、わかってるさ。

また、…たらしい計画を立てて…る。アメリカ征服の…の第二歩目となるものさSILVER。

誰にも…らして…らないからな。

まかせろ、A・H・Gにも協力者を…った。しばらくはA・H・Gをうまく使うさ。

さすがだ…。

ザーザーザーザー。

テープが切れた。

「待てよ待てよ待てよ。」

トムは椅子から立ち上がって考える。

「たしかにGOLDの声だ、それにサンソットはマジメで有名だったぐらいだ……。。」

トムは顔をあげた。

「決めた俺はサンソットの意志を受け継ぎA・H・Gを壊滅させる。」

トムはそう決心し部屋を後にした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6504b/>

HUNT CODE:REBELLION

2010年10月28日05時26分発行